

編集後記

かつて絶版の書籍を入手するのは一苦勞であった。古書店を当たるか、図書館を調べるか、国会図書館にありながら目録が不十分でたどり着けないというケースもしばしばあったようである。

そういったことが、近年の電子化で急速に解消されたように思う。電子書籍のことを言っているのではない。書誌情報の電子化とウェブ上での公開である。

最初に実感したのは古書店のネット販売であった。何年も見つからなかったものが地方の古書店から拾えた時は嬉しいよりも脱力感が勝ったものである。

近頃驚くのは図書館の館蔵資料の電子化とネット公開の進展である。代表は国会図書館で、かなり以前から著作権の切れた明治大正期の書籍をどこからでもダウンロードできるようになっていた。著者の一部が不明のためグレーゾーンにある雑誌なども限定的ではあるが自由に閲覧できる。加えて、昨年暮れより全文検索も可能になった。

国会図書館蔵書中、電子化されたおよそ五百万冊のなかから一行の記事を見つけ出すことも今では難しくない。その結果、面白いことに古いものは調べやすく、著作権が残るものは却って手にしにくいという逆転現象がおこる。

野放図な複製を抑制する著作権と、自由な配布を促す電子公開。学術情報の流通は両者のはざままで揺れ動く。折り合いがつくのはもう少し先かもしれない。

本紀要は前身のフォトニクス研究所紀要も含めて電子版のみの発行であり、もちろん閲覧制限はない。関係者へPDFファイルを配布するだけでなく、記事ごとに機関リポジトリに登録されているため、自由なダ

ウンロードはもとより、一般的な検索エンジンでもそこそこヒットする。

重要な研究成果は権威の確立した学術誌に登載されることが、研究者の評価にとって最優先であることは否定しない。ただ、残念ながらその記事を読むための費用が高騰し続けていることも事実である。機関費用で維持される大学紀要が、揺れ動くはざまの中でどこに立ち位置を見出せるのか。そんな視点が望まれる。

(YK 生)

編集委員

山中 明生
吉本 直人
大越 研人
谷尾 宣久
唐澤 直樹
曾我 聡起
今井 順一
三澤 明
大河内 佳浩
川辺 豊 (幹事)

編集庶務担当

仲俣 里美

公立千歳科学技術大学紀要 第4巻 第1号

令和5年3月31日発行 通巻5号

編集 公立千歳科学技術大学紀要編集委員会
発行者 公立千歳科学技術大学
〒066-8655 北海道千歳市美々758-65
電話 0123-27-6014